

公益財団法人大河内記念会

令和3年度事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

当会は、生産のための科学技術の振興を目的として、従来に引き続き、その事業の根幹をなす大河内賞の表彰事業を実施した。

1. 表彰事業

(1) 大河内賞贈呈

大河内賞審査委員会(大学教授等20名の委員により構成)は、産業団体、学協会、大学、研究機関等から推薦された第68回(令和3年度)大河内賞受賞候補業績について、書類審査、業績内容に関するヒアリングおよび当該業績の製造現場等の実地調査による審査選考を行った。最終的に同委員会により7件が選定され、当会理事会の議を経て、令和4年3月22日に次のとおり大河内賞を贈呈した。受賞業績題目等は、別紙のとおりである。

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 大河内記念賞(賞状、メダル、副賞金100万円)…………… | 1件 |
| 大河内記念生産特賞(賞状、大型賞牌)……………      | 1件 |
| 大河内記念技術賞(賞状、メダル、副賞金30万円)………  | 4件 |
| 大河内記念生産賞(賞状、賞牌)……………         | 1件 |
| 合 計                          | 7件 |

(2) 受賞業績報告書等の発行

前年の令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として第67回大河内賞受賞候補業績の募集を中止したことから、受賞業績の技術内容を掲載する「大河内賞受賞業績報告書」の発行はできず、また大河内記念会の機関誌「五兆」についても同様の事情から発行できなかった。

(3) 見学会の中止

例年、受賞業績に係るフォローアップに関連して、大河内賞受賞者、当会賛助会員等を交えて開催してきた「生産のための科学技術」に関する見学会について、高齢者を含む大人数の集会となるため、新型コロナ感染拡大防止の観点から開催しなかった。

2. その他

当記念会の表彰事業の充実及び当該事業に係る財政基盤の維持のため、新型コロナ不況と言われる中で賛助会員の減少防止に努めた。

以上